

ユダヤの三位一体

2009年11月15日 アシェル・イントレーター

ある人々は「ユダヤの三位一体」をイスラエル民族、イスラエルのトーラー（モーセ五書）、そしてイスラエルの地としていますが、そのような言い方をするのは残念なことです。それはメシアとしてのイエシュア（イエス）の権威に反しており、私たちの生活への聖霊の働きを見逃し、そしてこのようなユダヤ的要素を偶像礼拝の対象にしてしまうことです。

一方多くのクリスチャンは神のご計画におけるイスラエル民族、律法書、そしてイスラエルの地について見逃してきました。これら二つをつなげるためには、イエシュアご自身が私たちの父祖たちの前に YHVH (注) の御使いとして現れたのを見ることにあります。

注: YHVH は、創造主なる神の聖なる御名をヘブライ語四文字 (יהוה Y-ヤッド、H-ヘイ、V-ヴァヴ、H-ヘイ) で表したもので、聖なる御名ゆえ発音しない。通常ユダヤ人は「アドナイ」(主) と言い換えている。

イスラエル民族

YHVH はアブラハムに何度か現れました (創世記 12:7, 15:17, 17:1, 18:1-33, 22:15)。創世記 18 章で YHVH は実際の人の形を取って現れました。主はアブラハムと食事をされ、ソドムの破壊について語られ、サラを通して息子が与えられると約束されました。この御使いは YHVH と呼ばれているので通常の御使いではありません、また地上に現れて人の形を取っているので天の御父でもありません。

これこそイエシュアであります。イエシュアは YHVH が地上に人の形を取られて現れたお方です。この同じ神であり、人であるお方がアブラハムとその子孫に対して永遠の契約と忠誠を交わされたのです。ユダヤ人にとって決定的な瞬間は、実際に人の形を取られた YHVH、すなわちイエシュアと家族契約を交わした時でした。

あるユダヤ人はイエシュアなしの契約を望んでいます。それは不可能です。主ご自身と私たちの父祖たちが契約を交わしたのですから。あるクリスチャンはユダヤ人なしでイエシュアを望んでいます。それも不可能です。イエシュアが現れた瞬間から、トーラーと福音両方について、主はユダヤ人とつなげたのですから。私と妻が契約によってつながれているように、イエスとユダヤ人もそうなのです。一方なくしてもう一方は成り立たないのです。主はまるで、不誠実な妻を持つ誠実な夫のようなお方です (ホセア 1-2 章)。

律法書

出エジプト記の中で YHVH の天の御使いは何度もモーセの前に現れました。

出エジプト 3:2, 4-このお方は御使いであり、神とも称されています。

出エジプト 14:19, 24-ここでもこのお方は御使いであり、神とも称されています。

出エジプト 17:5-6-岩から水を出させた時、主はモーセの横におられました。

出エジプト 24:10-11-モーセと 70 人の長老らは人の形を取られた神を見ました。

出エジプト 33:21-21-モーセは岩の裂け目から主の背中を見ました。

このお方は神からの使いであるため、天の御父であるはずはありません。このお方は神であり YHVH と呼ばれていることから、通常の御使いであるはずはありません。

神であり、神の使いでもあるこの YHVH 御使いは、ただイエシュアお一人のみです。もし主ご自身が出エジプトとシナイ砂漠を通してモーセと共におられたなら、主こそ十戒を指で刻まれたのに違いありません(イエシュアが地面に文字をお書きになったヨハネ 8:6 と比較してみてください)。イエシュアと十戒とのつながりはトラーと福音に関する天啓による理解が開かれます。

絶対的な道德規準なしの福音は世俗的、肉欲的なキリスト教へと変貌させてしまいます。メシアの贖いの犠牲なしのトラーは個人の福音なしの宗教的儀式主義に陥らせます。イエシュアが十戒をお書きになったので、道德的基準なしの福音はありえず、メシアの犠牲なしのトラーはありえないのです。

それゆえ、イエシュアは姦淫によって十戒を破った女性を赦すことができます(ヨハネ8章)。主はご自身を「安息日の主」と述べることができます(マルコ 2:28)。主は若い富豪の指導者に、永遠のいのちを得るために戒めを守りなさいと言えるのです(マタイ 19:17)。「あなたの神(YHVH)、主である。(出エジプト 20:2)」と書かれたのはイエシュアなのです。(それゆえ、十戒の最初は YHVH 御使いであるイエシュアの神性の信条とも見えるのです。)

イスラエルの地

現代の国際政治において最も議論を起こすトピックは、イスラエル・パレスチナの地に対して誰がそこを「occupy(居住する)」権利があるかということです。「occupy(居住、占拠、占領、陣取る)」と「conquer(征服、制圧、勝ち取る、克服する)」という言葉は、ヘブライ語では同じ単語であり、「コヴェシユ」という言葉です。カナンを最初に征服したのは誰だったのでしょうか。

エリコの闘いの前夜、ヨシュアの前に一人の人が現れました(ヨシュア 5:13-15)。この人は YHVH の軍隊の総司令官でした。彼はヨシュアにサンダルを脱げと命じました(モーセが燃える柴の前でそうしたように)。ヨシュアは彼に向かって「主よ」と呼びかけ、その人を礼拝するため頭を垂れました。繰

り返しますが、この人は普通の御使いではなく、また御父なる神でもありません。彼は、この世に誕生する前のイエシュアに違いありません。

この御使いである司令官がエリコの闘いを指揮しました。主の軍隊がエリコの城壁を打ち壊しました。主の軍隊がこの地を征服するために闘いを導きました(ヨシュア 10:11, 出エジプト 23:23, II サムエル 5:24, 士師記 2:1-4)。最終的にイスラエルの地と全世界は神に属することにはなるのですが。

YHVH の御使い/イエシュアによるカナンへの征服は、すべての主の民のために全世界を再取得するための最初のステップでした。イエシュアは YHVH 軍の総司令官として再臨され、ヨシュア記のエリコ陥落から始まった地の制圧を完成させるのです。

あるクリスチャンはイスラエルの地なしでイエシュアを望んでおり、あるユダヤ人はイエシュアなしにイスラエルの地を望んでいますが、これら二つは一つになっているのです。現代のイスラエルの地の占領に関する議論はイエシュアの再臨に反する悪魔的な根であり、全世界に対する主の支配権を神が宣言しておられることなのです。

再び、国連に関して皆さんには義について祈って頂きたく存じます。下記の動画(英語)を見て頂き、そのメッセージについて検討して頂きたいと思います。

<http://www.honestreporting.com/a/UNHypocrisy.asp>